

第百三十三師団略正

陸軍中將 野地嘉平

年月日	概
昭、三〇 三〇、二、二八	<p>師団は昭和三十年軍令陸甲才十八号に總り 才七十一師団長管理の下に中支板州市金華市附近に於て編成を定結し 陸軍中將野地嘉平之を統率す 師団は編成定結と共に才十三軍の指揮下に置したるも 才六軍の戦斗序列に編入 同軍の終戦後南京附近への移駐に伴い再び才十三軍司令官の指揮下に入らし めらる 師団の編成附表才一の如し 師団將兵の素質及兵器裝備等 師団の將兵は才六十五師団及才七十師団の將兵を基幹とし一部才二十三軍 補充隊員及北支那等の隔地部隊將兵を交えたる編成部隊にして素質必ずし も良好ならず加え兵器裝備は定数の三分の一に尠たざる状況を以て之の精 成を定結す</p>

~101~

2957

年月日	
概	<p>昭二〇、五、五</p> <p>配給の概要 師団は才七十師團より警備地域任務を継承す 縮成当初に於て配給別紙要函才一表の一の如し 才一師団警備隊に配服せしめられありたる独立歩兵才六百十一大隊及独立 混成才九十旅団に配服せしめられありたる独立歩兵才六百十二大隊の復歸 後に於ける配給別紙要函才一表の二の如し 終戦後復員準備のため 独立混成才九十一旅団及独立速射砲才四十二中隊等才六軍直轄部隊を 返す 独立混成才六十二旅団（昭和二十一年一月一日才十三軍の指揮下に）を指 揮下に入らしめしむる 爾後中海嶺の指令による集中配給別紙要函才二の如し</p> <p>教育訓練 師団は新選の兵素質劣裝備を以てして切迫せる光写採戦に必勝を期すべき の途は訓練の精進に他なしとなし 爾後灼骨砕心不眠不休の訓練に精進したる結果月を重ねるに従い部隊の志 気大いに等り裝備の整備を確信せり</p>
源	<p>八、三〇</p> <p>九、一〇</p>

~102~

昭、三〇、八、上旬

光号作戦準備

師団は編成直後光号作戦のため湖州附近に二大隊、板州附近に四大隊、諸
暨、船興附近に一大隊分の陣地構築を命ぜられ当時構築資材等極め之
寡少の状況下に風雨の困難を克服し寸刻を欲し及鋭意之を完成に刻苦努力
し返に

漸次強固態勢を模成するを得たり

戦績

師団は編成以來

各營備地毎の治安確保のための討伐的戦斗行動の外大部隊を以てする戦斗
行動を行つた機会せず

終戦

終戦と共に才十三軍の命に依り才三戦区司令長官瀧沢中将に投降す

又師団は矢括、彈藥、馬匹、被服、糧秣等の譲渡を開始し之の大分を板
州市一部を湖州及嘉火に於て夫々受降主隊に譲渡す

復讐

才十三軍命令により師団長は部下部隊並に独立重砲連才四十二中隊、
独立自動車才二百五十五中隊同才二百五十八中隊の復讐を管理せしめら
る

~103~

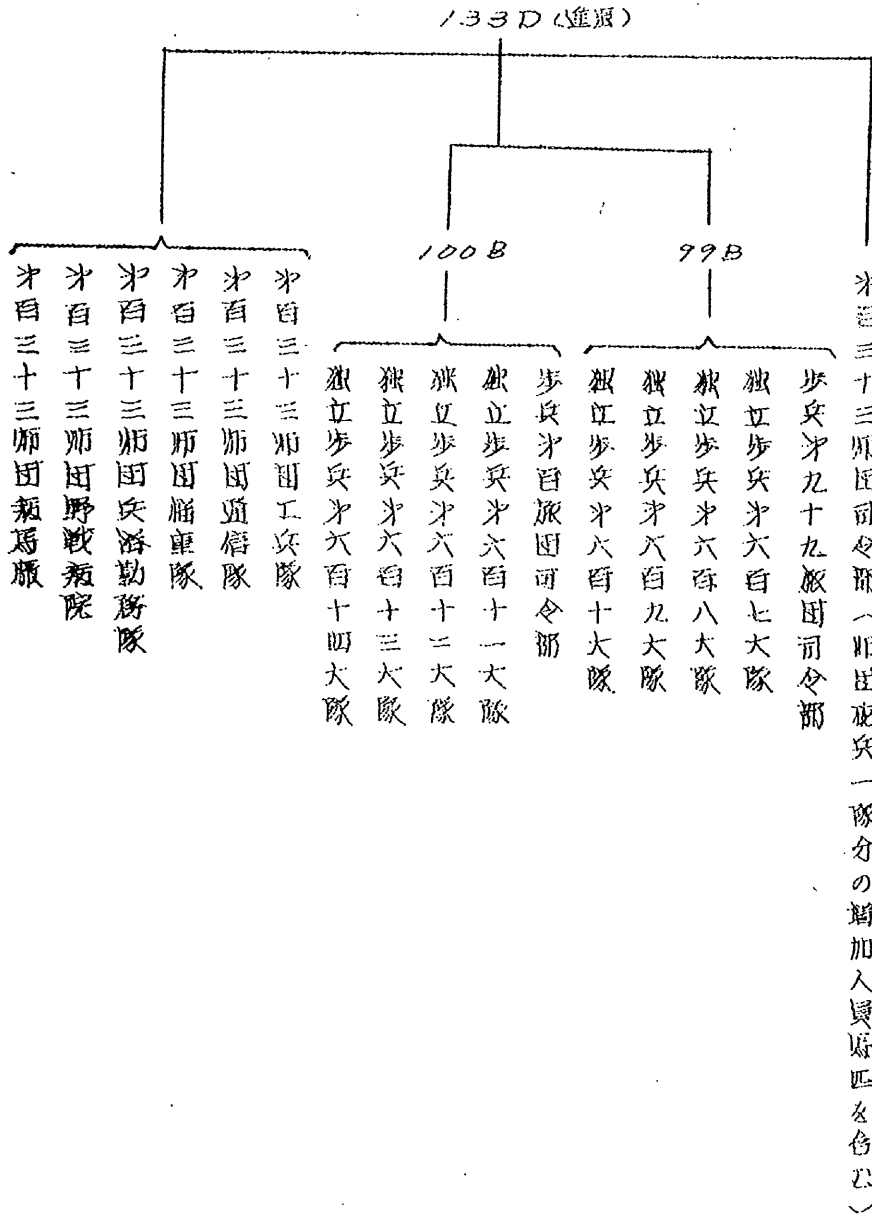
2959

年月日	事項
昭和三年三月三十一日	<p>一、師團級下指部下部隊を上海に集結し 復興管理部隊以外の部隊を上海集結の時を以て夫々原所属部隊に復帰せしめたり（当該復興管理官の指揮下に入らしめたり）</p> <p>二、師團は上海到着と共に 直ちに宋箱館に於ける復興諸業務を實施 之の才一船を贈還せしめ 最終戦を以て終止せしめたり</p> <p>師團司令官は上陸地先遣者、復興者、家族携行軍服及女子軍服等若干人 員を先行帰還せしめ大部を左記の如く夫々復員せしめたり</p> <p>才一炊 九一八名（内衣務整理者 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百）</p> <p>二日市） 於博夏</p> <p>才二炊 五一二名（ 三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百）</p> <p>才三炊 二六八名 於如前</p> <p>才四炊（全） 一六二名 於博夏（内衣務整理者 三、は二日市）</p> <p>師團長（証人戦記援護会勤務員五）は戦記容疑のため上海才十三軍司令 部に残留せり</p>

~104~

附表第一

才百三十三師團編成表



~105~

附表才二

部隊長等職取官氏名

職	官	氏名
才百三十三師團長	陸軍中將	野地嘉平
才百三十三師團參謀長	陸軍大佐	攝沢一治
才百三十三師團參謀	陸軍少佐	仁木辰注
司	司	齋川辰巳
才百三十三師團副官	陸軍大尉	阿村三郎
司	陸軍中尉	岩尾良治
歩兵才九十九旅團長	陸軍少尉	小野誠
歩兵才九十九旅團副官	陸軍大佐	城戸賢爾
司	陸軍大尉	日向秀吉
獨立歩兵才六百七大隊長	陸軍少尉	野平義彦
司	陸軍大尉	中村此君生
才六百八大隊長	司	水崎久雄
司	司	村木敏行
才六百九大隊長	司	鈴木正司
才六百十大隊長	司	鈴木正司

~106~

2962

才百三十三師団司令部の一部略正

陸軍大尉 長井 実治

年月日		概					要	
三、二八	三、二六	人員 異動なし 師団先遣とし之 中華民国浙江省嘉兴出港 上海に於之独立歩兵才百十大隊の一部増徴引率着 陸軍大尉 坂口繁生の指揮下に入る	将校	准士官	下士官	兵	計	備
三、二七	三、二六		一	一	一	二		
三、三一	三、二六		一					
三、三一	三、二六		一					
三、三一	三、二六		一					

~08~

第三、三、三一

三、三一

観覧式

解散

戦時名簿の処理状況

上陸時までに完了せり

輸送間の事故

なし

その他

残務整理独立歩兵才六百十大隊残務整理に依頼す

残務整理者

陸軍大尉

坂口繁生

陸軍曹長

木部巳知夫

四、四

残務整理完了

召集解除となる

2409~

2965

才百三十三師團司令部の一部（砲兵隊）略正

陸軍大尉 高木 茂

年月日	概
昭三〇、三、二八	部隊は中華民国浙江省杭州梁杭州に於て
才百三十三師團管理部下に之を編成業務を實施中兎指寸前に終戦となり	兩校才百三十三師團司令部の一部とし行動せり
終戦後	終戦後
師團は中國側より嘉兴、嘉善地区に兼中を命ぜられ部隊は師団夜命に依り歩	兵才九十九旅團長の指揮下に入りしめられたり
兩後の行動概要左の如し	兩後の行動概要左の如し
兼中營務狂のため杭州出発	兼中營務狂のため杭州出発
兼中地嘉善梁千密鎮に到着	兼中地嘉善梁千密鎮に到着
内地掃蕩のため兼中地出発	内地掃蕩のため兼中地出発
上海に到着へ才十五兵站、勤務隊宿泊	上海に到着へ才十五兵站、勤務隊宿泊
上海出帆	上海出帆
博多港上陸	博多港上陸
四、二	博多港上陸

~110~

2966

歩兵第九十九旅団司令部略歴

陸軍少将

城

戸

年月日	概	要
昭三〇三、二八	旅団は軍令陸甲才十八号編成改正に依り金草に於て編成担任官歩兵才六十二旅団長担任下に才七十師団より編成を實施す	
三、二二	旅団長 城戸大佐 兼任す	
三、二〇	旅団は歩兵才六十二旅団と嶺南地区の警備を交代し旅団司令部は金草に在り之独立歩兵才六百八大隊は金草、独立歩兵才六百九十大隊は武義嶺独立歩兵才六百十大隊は養鳥、独立歩兵才六百七十大隊は龍登に於て夫々警備に任じ尤号旅戦の準備をなす	中村比呂生
六、一〇	独立歩兵才六百七十大隊長 陸軍大尉 独立歩兵才六百八大隊長 陸軍大尉 独立歩兵才六百九十大隊長 陸軍大尉 独立歩兵才六百十大隊長 陸軍大尉 旅団長 城戸大佐 少将に陞抜す	水崎久雄 村木敏行 鈴木正司

年 月 日	概
五、二〇、七、一五	旅團は主力を以て一週間に亘り諸陸附直の庶幾旅團軍の討伐を実施す
八、一四	旅團は待戦の御詔勅を拜し各小地区の戦線の整理を怠す
八、一六	旅團は終戦に伴い金華より杭州に反転すべく準備を怠す
九、一	旅團は錢南地区の警備を才三十二集団軍に委譲し杭州に移駐す
九、一六	旅團は武装解除の命を受け突洛彈薬一切を師団司令部に返納す
一〇、九	旅團は杭州より嘉善に移駐し 嘉善地区に於て復員準備を怠す
三、一、二	旅團は南京——杭州道及海鹽——取浦道修築のため中隊測の功役に服す
三、三	旅團は復員のため上海に集結す
四、三	旅團は復員のため上野を出発す
四、七	旅團は博多港上陸 復員を完結す（前日陸軍大尉松岡久一以下一八一名除隊召喚解除す（博多））
復員状況	復員状況
理中	獨立歩兵（六〇七、六〇九、六一〇）大隊は現在二日市に在りて残務監
獨立歩兵才六〇八大隊は現在上海に在りて内地帰還のため準備中	獨立歩兵才六〇八大隊は現在上海に在りて内地帰還のため準備中

~116~

歩百三十三師団独立歩兵才六百七大隊略正

陸軍大尉 中村 忠 啓 生

年月日	概
<p>昭三〇二、三三 三、二八</p>	<p>昭和二十年軍令陸甲才十八号に拠り歩百三十三師団長陸軍中将内田孝行新編才百三十三師団編成を令せしむるに即日歩兵才六十員團長陸軍少将原田久男は歩兵才九十九旅団編成担任官となり獨立歩兵才百二十一大隊長陸軍大佐大野静男は獨立歩兵才六百七大隊編成担任官として編成に着手</p> <p>編成を完結せり</p> <p>編成完結時の甲隊区分は</p> <p>本隊</p> <p>一 旅中隊 五ヶ中隊</p> <p>機関銃中隊</p> <p>歩兵砲中隊</p> <p>通信隊</p> <p>これに編成人員 将校四五名、准下士官一三三名、兵一、三八七名、計一、五六五名なるを事故者（入院患者及未到者）二七八名あり之を任入員一、二八名</p>

年月日	概
昭三、三、三	取り 大隊は前任部隊たる歩立歩兵第百三十一大隊より浙江省蕭山縣並諸隆景の全 部及紹興縣の一部を含む地区の鹽滷及浙滷鉄道靜江岸より水下载に至る鉄道 營繕を継承し大隊主力は諸隆景諸營に位置す
五、二	光号作戦へ援隊作戦に附し大隊は胡公台に陣地構築を開始す
五、五	大隊長陸軍大尉中村此君生諸營到着 着任す
五、一	甌甌に於て行われし河鎮附近の討伐に大隊は一部兵力を残置し主力を以て撤 却し甌甌大隊となり出動す
五、一八	
八、一五	大命に基き大隊は戦斗行動及陣地構築を停止す
九、一三	杭州旅中のため浙江省諸營出発
九、一七	同日杭州に到着す
九、一八	武希
九、一九	甌甌
九、二〇	自働軍
九、二一	馬匹

昭三〇、九、二二	軍輸	彈藥を杭州才一接管組に譲渡す
九、二九		移駐のため杭州公発
一〇、一二		浙江省蕭山縣西門鎮に到着す
一〇、一三		被服、物品、器材（定数による廻り品）を杭州才一接管組に譲渡す
一〇、一五		終戦に伴う現地除隊者は
八、一八	二〇名	
八、二三	一名	
九、二	一名	
九、二一	五名	
九、三〇	二名	
一〇、一一	一名（以上内地兵）	
九、二九	五六名	
一〇、二九	六名（以上半肩水筒あり）	
昭三、一、三		京杭国道修理作業のため作業才四大隊本部要員陸軍少尉肥田木敏夫以下二三名、才三中队要員陸軍大尉西殿貞三以下一九三名、才四中队要員陸軍大尉川口敏雄以下一九三名、計三九八名
		任地に向い所管機を出発す

~17~

2973

年月日	概	要
昭三、二、一八	大隊長陸軍大尉中村此君生及大隊附陸軍大尉伊豫半満並陸軍大尉推野仲三郎以下二二一名才十五以坊勤務隊要員として上海に向い西郷鎮を出発す	
二、一八	陸軍大尉推野仲三郎戦死に付い才五甲隊を軍隊区分より控除し残余人員を歩兵砲中隊に配当す	
二、一三	京放国道修理作業中大隊に派遣中の陸軍大尉西取貞三以下三九四名（派遣人員三九八名中二名入院二名死亡）は作業終了し	
二、一九	浙江省天津鎮出発	
二、二二	西郷鎮に到着す	
二、二二	大隊は一三三所前可救命甲才八号及九九旅救命甲才一〇号に基き西郷鎮市河の渡渡作業を開始す	
二、二八	陸軍軍醫岸副返介外三名は学徒般學習者として出発し	
三、一四	佐世保港に上陸す	
三、二二	大隊は上海途中のため浙江省嘉善縣西郷鎮出発	
三、二八	同日上海に到着す	
三、三一	陸軍大尉福富國之助以下將校二〇名准下士官一六一名兵八六一名計二〇四二名（大隊本部を除く）内重精置のため上海港を出発し	
三、三一	佐世保港に上陸す	

昭三、四、三	陸軍大尉中本群次以下將校七名、下士官一六名、兵四五名、計六八名（大隊本部）は内地帰還のため上海港を出发し
四、七	博多港に上陸す
四、七	板買式を完了す
四、一九	陸軍大尉中本群次、陸軍曹山田博章は業務整理を完了す 大隊長中村此君生才自三十三師団司令部附を被仰村らる

2119a

獨立歩兵第六百七大隊の一部略正

陸軍大尉 鍋島 國正助

年月日	概	要
昭二、三、二六	一一、〇〇 復員のため部隊主力と別離（才二中隊長 陸軍大尉 鍋島國正助以下一〇四二名）し才十五兵站宿舎を出発	陸軍大尉 鍋島國正助
三、二六	一四、〇〇 上海旧市政府に於て私物及荷物検査実施了す	
三、二八	一八、三〇 果船待機のため上海旧市政府宿舎に入宿す	
三、二八	一〇、三〇 策船命令に依り旧市政府宿舎出発	
三、二八	上海飯田棧橋に至り、二梯団編成す	
三、二八	一五、〇〇 才一梯団は駆、巨瀆写に、才二梯団は、駆、初册写に乘船了す	
三、二八	二三、〇〇 上海飯田棧橋出発す	
三、三〇	一二、〇〇 佐世保浦頭港に上陸	
三、三〇	輸送中遺着及其の他異状なし	
三、三〇	一六、三〇 佐世保浦頭検査所に於て諸検査完了す	
三、三〇	検査の結果陸軍伍長畑一男上等兵八木保、上等兵佐々木末一上等兵宮尾高見、上等兵石見瀧美以上六名入隊す	

~170~

2976

	昭三、三、三〇 三、三〇 三、三一 三、三一
	部隊復員退却書類検査実施す 一七、三〇 在世家針尾海兵田才五号宿舍に入宿 〇九、〇〇 復員式挙行す 一一、〇〇 各府県別毎に針尾海兵田宿舍出欠 精詳す

~121~

2977

独立歩兵才六百八大隊（遊撃才二三〇五六部隊）略正

陸軍大尉 水崎久雄

年月日	概要
自 昭二〇、二、二八	部隊長官氏名 陸軍大尉 水崎久雄
至 二、五、一四	昭和二十年軍令陸甲才十八号発給
二〇、二、二八	編成地 中華民國浙江省金華県
	編成管理官 才七十所隊長 陸軍中將 内田孝行
	編成担任官、独立歩兵才百二十二大隊長 陸軍少佐 伊藤政次郎
	編成要員は独立歩兵才百二十二大隊に拠る
	浙江省金華地区警備
自 二〇、三、一 至 八、一四	

~122~

2978

<p>至 昭三〇、九、三 三、三、二四 二、四、二三 四、三〇 二、一</p>	
<p>浙江省杭州及嘉善景千密鎮に於之復員準備 上海出張 舞臺上陸 復員完了</p>	<p>兵力 縮成當時 一、四二八名 復員人員 一、二七八名 縮成以來死没者 四二名 生死不明者 八名（内半歸出隊五名含む）</p>

~123~

0898

2979

第百三十三師團獨立歩兵第六百九大隊略正

陸軍大尉 村木敏行

年月日	概況	要
昭和二三八年	<p>新 成</p> <p>大隊本部 一</p> <p>一 徹中隊 五 (一 中隊は三小隊、一 小隊は四小隊)</p> <p>磯岡銃中隊 一 (一 中隊は四小隊、一 小隊は二分隊)</p> <p>歩兵砲中隊 一 (一 砲隊砲二門、大隊砲二門)</p> <p>通信隊 一</p> <p>計 大隊長以下 一五五〇名</p> <p>場所 中華民国浙江省武義県董盧</p> <p>緒成 歩七十師團獨立歩兵第六百三十三大隊を基幹として緒成し初年兵及補充兵一師團民兵にして戦斗の至要なく平均年令三十七にして志氣は概して旺盛なりとも兵全般に消極的なり</p>	<p>定員 七三名</p> <p>定員 二三三名</p> <p>定員 一三三名</p> <p>定員 一〇五名</p> <p>定員 七四名</p>

~124~

<p>至 五、三五</p> <p>自 二〇、三三八</p>	<p>至 八、一五</p> <p>自 五、二六</p> <p>至 五、二五</p> <p>自 二〇、三二八</p>	<p>至 二〇、三二八</p>
<p>牙三中队 浙江省金華縣下朱（金武機警船）</p> <p>步兵中队 浙江省武義縣武義</p> <p>中二中队 浙江省武義縣武義</p> <p>中一中队 浙江省永康縣口字籍市</p> <p>通信隊 浙江省武義縣龍巖</p> <p>機関銃中队 浙江省武義縣龍巖</p> <p>大隊本部 浙江省武義縣龍巖</p>	<p>部隊の配備</p> <p>中華民國浙江省龍巖杭州市上天竺に在り之龍州地区の警備</p> <p>陸軍大尉 村木敏行</p> <p>部隊長官氏名</p> <p>隊に比し極劣なり</p> <p>一般に不充分にして自動火器の大半は鹵獲銃にして彈藥の不足著しく他部</p>	<p>表 附</p>

~125~

2981

年 月 日	概 要
附二〇、五、三六 八一五 二〇、五、一六	<p> 才四中队 浙江省金華縣考棚（浙贛線警備） 才五中队 浙江省杭縣杭州市（那田直轄杭州錢塘江六和橋警備） 大隊本部 浙江省杭縣杭州市上天竺 才五中队 浙江省杭縣杭州市上天竺 魏肉銃中队 浙江省杭縣杭州市上天竺 歩兵砲中队 浙江省杭州市下天竺 通信隊 浙江省杭縣杭州市下天竺 才二中队 浙江省杭縣杭州市之江大学跡 （六和橋警備） 才四中队 浙江省蘭陽縣家政 祖立歩兵才六百十二大隊才二中队 浙江省余杭（当大隊配属） 才一中隊 浙江省金華縣金華（才九十九旅团直轄） 才三中队 浙江省金華縣嶺下米（祖才六〇八大隊配属） 部隊移駐 浙江省武義地区の警備撤収以金華縣結 </p>

31
32
33

昭三〇、五三一	浙江省金華縣金華出張（才一才三中隊欠）
五、三五	浙江省杭州府府
九、二	才一、才三甲隊金華出張
九、一三	浙江省杭州府府到着
一〇、一〇	同日大隊復帰
自二、三、三二 至三、三三	浙江省杭州府府出張 同日歸省出張出張到着
二〇、八、一四	終戦の状況
九、一三	大隊は浙江省杭州府府市上天竺及福陽縣宋殿に在り之杭州地区を警備中 停戦決定成り終戦に到る
一〇、一〇	大隊杭州に集結
二一、三、三三	移駐のため杭州府出張
三、二、三	同省嘉善縣千密鎮出張 内地勅選のため浙江省嘉善縣千密鎮出張 江蘇省上海到着

~127~

2983

2983

年月日	
証	<p> 四、三、三三九 大隊の二浦上遊出発 四、二 母上座 解散を命ず 四、一 大隊主力上遊出発 長崎県佐世保上陸 四、三 大隊の編成を解く 四、四 解散を命ず </p>

～/28～

2984

2984

独立歩兵第六百十大隊（第一三三師団長）略征

陸軍大尉 鈴木正司

年月日	概	要
昭三〇、二、二三	<p>定員 一、五八五名 馬 匹 一、二三頭</p> <p>昭和二十年軍令陸甲才十八号に依る部隊新設内示及び陸命課編成業務指示</p> <p>当時浙江省義烏縣義烏に駐留しありたる</p> <p>独立歩兵才百二十四大隊隊長陸軍中佐田辺新之より將校全員に対し部隊新設に対し部隊新設に因する内示及將校の一部に編成要員は才百二十四大隊本筋内に新設本部を設置し</p> <p>編成担任官歩兵才六十二旅団長陸軍少将原田久男の指揮に依り</p> <p>之以て動員才一日とし業務に着手</p> <p>先任部隊名を「太陽」と殺命呼称し業務に日夜及續す</p>	
二、二六		

~1270

2985

年月日	昭和二〇、三、二八	編成記略	要
二、二八	編成記略 秘匿名改称	一、二〇〇を以て率して編成記略せるも	
		部隊長の責任及担部隊より編入すべき編成要員たる基幹將校、兵務、馬匹等の到着遅延し運搬困難を待ちその結果を編成担任官たる歩兵少尉九十九旅団長原田少將に報告し	
		独立歩兵少尉百十大隊へ秘匿部隊名並録と改称として	
		浙江省長官に部隊を整え之の両合司指揮官たる	
		独立歩兵少尉百十大隊長田中佐より両大隊將校全員に対し宛辭及將校田中、田行兩氏に宛て訓示あり	
		部隊配給	
		部隊編成記略当時の兵力配給は概ね独立歩兵少尉百十大隊警備地域区内に配置	
		河大隊相互畏力密備に任じ併せ之戦斗訓練に重点を指向す	
		人員、馬匹、兵務補充状況及秘匿名改称	
		部隊長の責任はき外未到着人員、兵務、馬匹の補充兵共はを以て充實し部隊の威容は康として維持し	
三、中旬			

~130~

三〇、三二〇 配座名「進軍」の改称

部隊編立整備

三、二三

部隊完結後三旬三月二三日別義島小地区隊たる沢江歩兵才百二十四大隊は
田辺部隊畏懼卒の下某方面に戦務止り

部隊は本部を義島に駐し期部隊警備地区を覆り現勢の終引終了
後島小地区隊として進進

警備勤務並に地区内討伐を更進せり

五、三

部隊長着任

陸軍大尉 鈴木正司

着任当日村候式

又之部隊長代理松岡大尉状況報告

任務引継完了

五、四

午前在義島部隊全員及隣地区隊長各首等代校將兵に對し訓示並に總率方針を
下達す

討伐

六、中旬

六月中旬部隊長以下約四〇〇名並警備河嶺附近の討伐に参加

演習会

七、初旬

部隊射撃大会舉行

~171~

年月日	概況
昭三〇七、中旬	<p>(近距離射撃に重点を指す)</p> <p>団体優勝 才三中隊</p> <p>個人優勝 大隊本部 陸軍々曹 大平 茂</p> <p>(特に一発必中の技術と信念に敬す)</p> <p>検閲、訓練及徹底</p> <p>戦斗訓練徹底週回及検閲を実施す</p>
八、一一	<p>原 戦</p> <p>「之レ」另作戦参加のため歩兵才六〇七大隊及同才六〇九大隊各一ヶ中隊の隊辰を受け大隊主力は</p> <p>〇一、〇〇 縦谷として義兵本部を先づ龜山嶺に向ひ出陣止り</p> <p>長途険崖を肩し進攻中</p>
八、一五	<p>命により諸賢泉陳蔡市出発</p>
八、一六	<p>黎明義鳥に附着せり</p>
八、一七	<p>任務才一火地区内掃蕩檢諸賢泉楓橋嶺攻果後階躰に策術</p> <p>停戦大命接受</p> <p>停戦大命降下の禮文授受</p> <p>肇國以來の大争に一同若胆寇羅激に堪えず以大命に従ふのみ</p>

~122~

2988

三二一、三	勞務恢復隊出張
一〇、一一	<p>一三三師前哨隊司令部三号に基き京杭國道補修作業のため師隊長鈴木正可以下八百名(内六〇七大隊三九八名を含む)出張せり</p>
九、二九	<p>半島挺身隊兵隊隊 陸軍少尉 金城栄貴 以下七十一名</p>
九、一三	<p>現地除隊を命ず(九月二十九日附) 嘉善渠西塘鎮移駐 胡墅鎮築路後約一カ月諸岳の接収を完了し 西塘鎮築路只管復員業務に従事せり</p>
九、一二	<p>兵舎、馬匹、爾岳接収完了 大隊は中國才三戦区才三十二軍參謀部大佐に整備並建造物等申請せり</p>
移 動	<p>杭州市胡墅鎮に集結 兵舎、馬匹、爾岳の接収を完了す</p>
移 動	<p>爾岳接収の取扱、隨忍自衛、整齊軍隊なる復員業務の処理、兵舎、接収準備に及預し望望有終の美を先揮するに遺憾なきを期す</p>

〜/22〜

年月日	概
昭二、三、一二	<p>遷居城移駐 残留隊後 坂口大尉指揮の下残留人員九一五名嘉善城内旧據前隊兵舎跡に移駐 糧買業務並準備に専念す</p>
二、一九	<p>労務作業隊精隊 作業終了部隊後 鈴木正司以下七八九名へ六一〇大死亡、二入院五、六〇 七六死亡二、入院二を除く一精隊せり 六〇七大隊三九四名配属を解き原隊に復精せしむ 作業状況概況の如し</p>
三、二二	<p>嘉善出港 上海乗船 〇七、〇〇より嘉善管理処の私刑検査を終了 師隊長鈴木正司以下一四九四名(捕虜敵、兵衛勤務隊を含む)上海乗船のため</p>

~134~

五、四、三、二、一

三、三三 三、二六	<p>一三、〇六番番取出張 一八、三〇上海到着 〇一、〇〇才十五兵站勤務隊に帰營す 部隊の一部帰還のため出張 坂口大尉以下一一八九名部隊長鈴木大尉の病状を脱し帰還のため上海才十五兵站勤務隊を出発す 部隊長以下九十名(本部)残務整理のため、残留 一部帰還 坂口大尉以下一一八九名博多に上陸 同日復員す</p>
四、二	<p>部隊長以下主力(本部)出張</p>
四、五	<p>同日 〇九、三〇より上海旧市政府に於て私物検査受検 一六、〇〇リバティール号に集結 上海出帆</p>
四、六	<p>博多港着 一八、二〇 上海港出帆</p>

236

年 月 日	備 考 欄
昭三、四、七	<p>一四、二〇 博多港着</p> <p>上陸復員</p> <p>〇八、三〇 上陸開始、検疫、私物検査終了後 復員式挙行 解散</p> <p>同日より二日市支那派遣軍復員本部に於て 大隊長鈴木正司及谷田幸次郎残務整理を實施す</p> <p>四、二〇 復員完結</p> <p>残務整理完了し 復員完結す</p> <p>復員完結時に於ける人員左の如し</p> <p>内地除隊 一、二八六名</p> <p>現地除隊 一〇五名</p> <p>死 歿者 五五名</p> <p>生死不明者 一五名</p> <p>入寇患者 九六名</p>

32

中
文
記
事

~136~

2992

3
4
5

第百三十三師団独立歩兵第六百十六大隊の一部略正

陸軍大尉 坂口繁生

年月日					
概					
引率者 陸軍大尉 坂口繁生					
人員 異動なし					
将校	准士官	下士官	兵	計	摘要
二二	四	一六五	一〇〇〇	一一九一	内期要員全部附二名を含む (将校一、下士官一)
行動の概要 柴船 柴船地 上海 出入 上陸					
三、三〇	三、三〇	三、二七	三、二六	三、二六	

~137~

2993

年月日	概 要
昭三三、三三二 三三三 三三三 四、一 四、四	<p>上陸地点 博多着</p> <p>復員式</p> <p>解散</p> <p>戦時名簿の処理状況</p> <p>大体整理は上陸時までに完了せり</p> <p>輸送車の事故なし</p> <p>其の他</p> <p>残務整理着 陸軍大尉 坂口繁生</p> <p>陸軍曹長 木部巳知大</p> <p>二日市復員本部九州連絡所到着</p> <p>残務整理完了</p> <p>同日 召集解除となる</p>

~98~

2994

歩百三十三師団歩兵少百隊団司令部略正

陸軍大臣 羽島長四郎

年月日	概 要
昭二〇、三、二八	<p>歩兵少百隊団は 浙江省杭景龍州に於て編成を完結す 之本編成は一司令部、四大隊に於て歩兵少百隊団司令部、独立歩兵少六百十 一大隊、独立歩兵少六百十二大隊、独立歩兵少六百十三大隊、独立歩兵少六 百十四大隊なり 將校以下の出身は少六十一師団、独立少六十二師団、少六十五師団、少三十 三軍補充隊員なり 歩兵少百隊団長は 陸軍大臣 羽島長四郎 任り 隊団（少六六一一大隊及び少六一二大隊を除く）は編成完結後直ちに錢南 地区警備隊となり杭州並に湖州固互の警備及び對米作戦準備に任ず 司令部は杭州に在り</p>

~139~

2995

年月日	
概	<p>独立歩兵才六百十三大隊は湖州 独立歩兵才六百十四隊は長安に在り 編成途上にして独立歩兵才六百十一大隊は才一独立警備隊長の指揮に入り茲 徳に駐屯</p>
要	<p>留三〇、五、九 独立歩兵才六百十二大隊は同じく鎮江に在り之同世附近の警備に任ぜり 旅団ハ(才百三十三師団工兵才一中隊、同輜重才一中隊、同野戦病院の才二 半部、同砲兵隊の一小队配属)独立歩兵才六百十一大隊、同才六百十四大隊 を除くは北地区警備隊となり杭州出發 湖州着 同地附近の警備並に対米作戦準備のため樂城並に教習に専心す 独立歩兵才六百十二大隊は 才六十一師団の指揮下を離れ鎮江を発し 原所屬に復帰せり 独立歩兵才六百十四大隊は師団直轄となり杭州に駐屯せり 師団の概要左の如し 湖州城防 司令部</p>

~ノコ~

一〇、三	<p>湖州に築結</p> <p>湖州を悉し</p>
八、三五	<p>湖州は進駐せる才四十九軍と警備を要状なく交代し</p> <p>湖州を悉し</p>
八、二〇	<p>本戦斗に於て我方若干の犠牲を生ぜるも敵に殆んど潰滅的打撃を与え湖州五</p> <p>万住民の民生を確保し同市民の總大なる賞讃を博したり</p> <p>湖州は進駐せる才四十九軍と警備を要状なく交代し</p>
八、一五	<p>終戦に伴い湖州は一切の戦斗行動を停止せるも匪軍の汚染なる状況と、命に</p> <p>依り湖州及び同周辺の治安確保に任ぜり</p> <p>匪軍約二千名は匪軍の末は進駐せざるを奇貨とし湖州占領を企図し熾烈に激</p> <p>撃し采りたるも断乎之を一蹴せり</p>
道場山	<p>湖州歩兵才六百十三大隊</p> <p>野戦病院の才二半部</p> <p>砲兵一小隊</p> <p>輜重兵才一中隊</p> <p>工兵才一中隊</p>
金蓋山	<p>湖州歩兵才六百十二大隊</p>

~41~

年月日		概 要
	<p>昭、二〇、一〇、一五</p> <p>三、三、一四</p> <p>四、三</p> <p>四、七</p>	<p>同時に配属部隊は指揮下を離れ夫々本隊に復帰せり</p> <p>杭州を発し</p> <p>嘉兴策中營に移駐</p> <p>現在に及べり</p> <p>上海策中營兼轄</p> <p>内地掃蕩のため上海港出帆</p> <p>博多港上陸</p> <p>同日 復員式挙行</p> <p>上陸人員 一八五名</p>

~142~

独立歩兵第六百十一大隊

略歴

陸軍大尉

清

歳

概

要

年月日	部隊行動の概要 部隊編成場所 中華民国浙江省 編成完結 その後の行動概要 安徽省及豫東広豫附近警備 浙江省湖州—杭州—嘉興—上海にて某中營生活 部隊主力と分離し復員の途上海出発 博多上陸 人員区分 将校二〇、准士官一、下士官一六三、兵九三一、計一、一四 輸送間に於ける入員の異動なし 尚厚地に残留せる主力の人員は約七〇名なり 異動精況 輸送間に於ける争故 其他の異動なし
昭三、二、二八	
自 四、	
至 八、	
自 九、	
至 三、三	
至 三、三	

~143~

第百三十三師團独立歩兵第六百十一大隊 略歴

陸軍中佐 三浦 巳之助

年月日	概要
昭三〇、三、六	<p>所管 第百三十三師團</p> <p>部隊号 独立歩兵第二〇六一部隊</p> <p>通称号 進惠第二三〇六一部隊</p> <p>編成完結</p> <p>場所 中華民国浙江省抗察覽橋</p> <p>素贖 第六十五師團独立歩兵第五十六大隊</p> <p>(出身部隊) 同 独立歩兵第六十六大隊</p> <p>部隊長官氏名 陸軍中佐(編成当初の官等) 三浦 巳之助</p> <p>部隊の任務 安徽省廣徳地区警備</p> <p>既備の概要 安徽省廣徳縣廣徳出発</p> <p>浙江省呉興縣湖州着</p> <p>同地附近の警備</p> <p>終戦に伴う移動経路</p> <p>同地出発</p>
昭三〇、八、二七 八、三一 同日	
昭三〇、一〇、三	

	<p>百、五 浙江省杭嘉湖杭州着</p> <p>百、五 同地出發</p> <p>百、天 浙江省嘉興嘉善到に兼中</p> <p>三、三、六 内地帰還のため上海に前進す</p>

~45~

3001

独立歩兵第六百十二大隊 略歴

陸軍大尉

山

下

孝

雄

年月日	概 要
昭二、二、二八	編 成 昭和二十年度軍令陸甲第十八号に依り編成下令 淮海省宿県に於て第六十五師團を基幹とし之に第七十師團より転入せる者を以て大隊の編成を完結す 大隊長 陸軍大尉 山下 孝 雄
三、五	部隊行動の概要 警備地へ移駐の爲宿縣出発
三、六	江蘇省鎮江縣鎮江着 第一独立警備隊に配属
三、七	第六一師團と警備交代 海州線丹陽―滄潭間の鉄道警備並に鎮江句容、丹陽楊中四縣の治安維持確保に任ず
五、六	軍命令基キ本属復帰のため第六十師團及第一独立警備隊第一大隊に鎮江地区警備を移讓

~146~

3002

五、八	部隊主力(第一第二中隊又)は湖州へ第二中隊は独立歩兵第六百十四大隊配属の為杭州へ向け夫々出発
五、一〇	第一、第二中隊は浙江省杭州着独立歩兵第六百十四大隊に配属杭州附近の警備に任ず
五、二〇	第一中隊は師団命令に基き独立歩兵第六百九大隊に配属若杭州六和橋附近の警備及光号作戦準備
五、二二	部隊主力(第一第二中隊又)は浙江省呉興縣湖州着湖州附近の警備並に光号作戦準備
五、二六	第二中隊は師団命令に基き独立歩兵第六百九大隊に配属若
六、一六	浙江省余杭縣余杭に移駐同地附近の警備及光号作戦準備
六、一六	第一中隊は師団命令に基き独立歩兵第六百九大隊の配属を解かれ大隊復帰
八、一四	浙江省呉興縣塘溪鎮に進駐同地附近の警備及光号作戦準備
八、一五	大命に基き終戦
八、一五	軍令陸甲第一一六号に依り復員下令
九、一八	大隊は師団命令に基き杭州集結の為湖州出発
九、一八	杭州中天竺着 同地駐留
一〇、一〇	独立歩兵第六百九大隊配属中の第二中隊は杭州に於て大隊復帰
一〇、一四	移駐の為杭州出発
一〇、一五	浙江省嘉興縣嘉興着 同地駐留復員準備

~147~

3003

年月日	
要	<p>昭三、三、三九 復員 内地帰還の為嘉興出発 上海着、乗船準備</p> <p>昭三、三、三九 帰還の為上海港出帆</p> <p>昭三、三、三九 博多港上陸 復員</p> <p>昭三、三、三九 部隊長 陸軍大尉 山下 孝雄 書記 陸軍曹長 清田 秀雄 副官 陸軍中尉 小野 誠 を以て福岡縣三日市町支那派遺軍九州連 絡所に於て残務整理を実施 終了</p>

~128~

3004